

太田市自分ごと化会議 2020

第2回 議事概要

日時	2020年10月25日(日) 13時30分～16時
場所	オンライン会議
コーディネーター	厚木市 こども政策アドバイザー 小瀬村寿美子 構想日本 プロジェクトマネージャー 田中俊

凡例) コ：コーディネーター、委：委員、市：市職員

議事概要

■はじめに（前回の振返り）

コ 前回は、働くことと暮らしについて、「現状と理想のギャップ」をお聞きした。

（現状について）

まず「現状」について、太田市は、他の街に比べて働く場所や賃金も高い一方で、高齢者の働く場ということになると場所が少なく、非正規や外国人労働者の賃金が低いという意見が出た。

また、子育てについても話が及んだ。皆さんの話を聞くと、太田市の行政の子育て支援策に対する評価は高く、子育て支援に魅力を感じた市外からの転入者もいるということが分かった。

（理想について）

次に「理想」について話を聞くと、昔は、若い時にかむしゃらに働いて定年を過ぎたら余暇を楽しむ、男性は仕事で女性は家庭のように、仕事と暮らし、男性と女性と分けて考えていたが、今は仕事と暮らし、男性と女性の区別なく、何事も両立させることが理想となっているという意見が挙がった。

そのために、テレワークが必要という意見や、仕事への刺激、変化も必要という意見が出た。

（現状と理想のギャップについて）

現状と理想について話を聞く中で、特に印象だったのが「子どもの送り迎えを夫に頼むことに後ろめたさを感じる」という発言である。これは、その家庭の問題というよりも、送り迎え先の周りの目なども含め太田市全体の空気感によるものだと考えられる。太田市の子育て施策は現状でも充実しているという意見もあった一方で、まだ男性は仕事、女性は家庭という価値観が残っているように感じた。

コ 今回も、第1回のように現状と理想のギャップから課題を見つけ、それを個人や地域、あるいは行政、企業などがどうしたら改善できるのかというところまで深堀できればと思っている。

■子育てと仕事の両立について

(キーワード：家庭内での折り合い、納得感、しわ寄せ、楽しさ、祖父母の協力)

コ 前回の会議後、周りの人とこの会議での議論を共有した人はいるだろうか。

委 子どもの送り迎えを夫に頼むことへの後ろめたさについて、周りのママさんたちに聞いてみたら、「分かる」という人が多かった。この空気感はみな感じているのだと思う。

委 子育てについて、祖父母が助けるというのはよく聞くが、友達同士で助け合うというのはあまり聞かない。友達同士での協力は難しいだろうか。

委 我が家の場合、子供の塾の送り迎えで近所の子供を我が家の車で一緒に送って行き、帰りはその友達の家が迎えに行ってくれるということはある。

コ 会社勤めの男性のご意見も聞ければと思うが、いかがだろうか。

委 昔、子供がサッカークラブに入っていた時に、父親の私が送り迎えをしていたが、家庭内の義務やルールで決められていたというよりも、サッカーを練習している子供の姿を見ることや、送り迎えの時間の中で子供のとのコミュニケーションが生まれることに楽しさを感じて送り迎えをしていた。どう楽しさを見出せるかが大事なような気がする。

委 「夜や休日の送り迎え」については夫婦間で分担がしやすいが、平日の昼間の保育園とか小学校とかの行事の時などは、女性が仕事を抜けていくことが多い印象を受ける。

女性が「家庭内での折り合いのしわ寄せ」を受けているというケースは結構あるのではないか。

委 我が家の場合は、子供が熱を出して保育園から急に連絡が来たときなども父親である私が迎えに行っていた。

コ 会社側の理解が得やすい環境ということだろうか。

委 会社の理解というよりも、「休みます」とその人が会社に意思表示できるかどうかだと思う。

保育園の迎えは、他にもお父さんが来ている家庭はあるし、周りの目をそれほど気にしたことはない。保育園によっては、防犯の観点から祖父母でさえ送り迎えできないところもある。

ましてや他人に任せることは、任せる側としても抵抗感があるし、親が責任を負うということが当たり前だと思っている。

コ 働く女性の意見も聞ければと思うが、どうだろうか。

委 我が家は夫婦ともに仕事が忙しかったので、祖父母に子供の面倒を見てもらっていた。

コ 祖父母が子育てを協力してくれることに対する世間の目はどうだったろうか。

委 周りからも「忙しい家庭だから祖父母が来るのが当たり前」という目で見られていたように思う。むしろ、私が保育園の行事に参加すると、お母さんが来てくれてよかったねという感じであった。

(キーワード：地域、相思相愛のような関係性、地域との普段の接点)

コ 仕事と家庭の両立ということについて、夫、妻、祖父母という家庭内である程度うまく回しているけれど、その中の1者が崩れた場合に、どうサポートできるだろうか。

いざというときに、例えば地域がどう機能するのか。地域、隣近所の協力という点については、どうだろうか。

委 母親としては、地域の方をお願いするのは申し訳ないというか、負担をかけることに気後れしてしまうので、制度として整ったファミリーサポートセンターのようなところに預ける方が預けやすい。

コ 子育てが終わっている男性のご意見も伺えればと思うがいかがだろうか。
地域で子供を見守るということについて、自分がサポートする側になることがあり得るだろうか。

委 近所の子たちをサポートすることについて、したいと言えばしたい気持ちもあるが、正直難しいように思う。
子供たちや子供のご家庭と相思相愛のような関係性が築ければよいが、あまり知らない仲では難しい。
ただ、数十年前に遡って、「自分の子どもの子育て」ということであれば、できなかったことが沢山あるので、やり直してあげたいと思う気持ちはある。自己完結する分には、積極的に取り組めると思う。

委 私もハードルが高いように思う。会社勤めで帰りも夜遅い時間になるので、普段からあまり地域と接点がない中で、地域の子どもを預かるというのは怖いし、ハードルが高い。

(キーワード：制度による誘導、制度のPR)

委 男性の育児休業について、行政から補助はできないだろうか。
何の後ろ盾もなく、いきなり個人の考え方を変えて行動に移すということは難しいように思う。制度があると助けになる。まずは行政の仕組みで誘導していくということも必要ではないか。

委 前回、ファミリーサポートセンターの話が話題に挙がったが、不勉強で知らなかった。サポートする側、される側それぞれに直接PRできるといいのではないかと思う。
あとは、企業側への働きかけも必要だろうと思う。行政から個人だけでなく、行政から企業への働きかけも必要ではないか。

コ 制度のPRという点について、どうしたらもっと市民に届くだろうか。

委 サポートされる側へのアプローチということであれば、保育園や幼稚園、小学校の行事などでPRするというのは考えられるのではないか。

■まとめ

- ・ 前回は、仕事と子育ての両立について、女性の負担感が大きくて、街全体としてもそういう空気感があるという意見が出ていたが、あらためて今回の議論を聞いてみると夫婦間で分担してこなしているという意見や、祖父母も加わって何とかこなしているという意見も聞こえてきた。
- ・ 現状では、祖父母の協力も得つつ、「家庭内で折り合いを付けながら上手くやっている」という印象。
夫婦間の分担に対する納得感が大事。どちらかが無理をしているということであれば、改善していく必要がある。
また、義務感やルールに縛られず、「楽しさ」を見出せるとよい。
- ・ 夫婦どちらかが折り合いのしわ寄せを受けていないか、女性が本当はフルタイムで働きたいのに、子育てとの折り合いをつけるためにパートで働いているのではないかと、どちらか、あるいは両方が無理をしている状況はないかということはもう少し探ってみる必要がある。
- ・ 地域の協力という点について、自分たちだけで折り合いを付けなくてもいい選択肢になり得るかもしれないが、外の人に家庭の中に入ってきてもらうことに抵抗感があるという意見や、地域や知り合いに頼むよりも制度として整っているファミリーサポートセンターに頼む方が気が楽という意見もあった。
- ・ 支援する制度はもっと PR が必要。支援を受けたい人、支援したい人にどう情報を届けるかは改善の余地がある。